

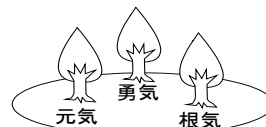
学校だより12月号



三保

本校ホームページアドレス

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/miho/>



令和元年12月3日

横浜市立三保小学校
TEL.045-931-1037

体験を通して問題解決の力を育てる

校長 安富 江理

月日が経つのは早いもので、平成31年として始まった令和元年も最後の月を迎えました。三保小の11月は文化・芸術の秋でした。令和初めての卒業生となる6年生も、劇団四季のミュージカルの観劇、日光修学旅行を終え、今は、卒業文集に向かって学年で取り組んでいます。個別支援学級は上郷に宿泊体験学習、1年生は「わらアート」見学、2年生はロボットを使ったプログラミングの出前授業・竹きり遠足、3年生はLIXIL横浜工場見学、4年生は音楽会、5年生は雨続きで遅れた「稲刈り」と充実した学習活動を進めることができました。本校の特別クラブ、ハミングバードは全国大会に出場することになりました。教育活動への多くの皆様のご協力に感謝いたします。

1年生は30日の土曜授業で「昔遊び」をしました。めんこ、独楽、あやとり、けん玉など一人二つの遊びを地域の方に教えていただきます。後日、自分が経験した昔遊びを、友達に教え、広げるという活動です。青少年指導員、民生委員、おやじの会など、地域の皆様にご協力をいただきました。霜が降り、霜柱が立つという寒い日でしたが、教室は子供たちの熱気と温かいご支援に包まれていました。家庭科室前の教室では、地域の方と楽しそうにお手玉やあやとりをする子供たちがいました。私も子供たちと「二人あやとり」を楽しみました。そのとき、お手玉を四つ握りしめた子供が「校長先生、見て。できないかもしれないけれど。」と真剣な表情で声をかけてきました。四つのお手玉を順番に回すことにチャレンジしていますが、なかなか思うようにできません。「三つは、できるけど。」と三つの連続をした後、「ちょっとゆっくりやってみる。」と言って、投げるスピードを落としてまた、四つにチャレンジしました。もう少しです。「おいしい。」と友達からも声が上がりました。四つ続けるというゴールに、「もうちょっと高く上げてみようかな。」などと言葉にしながら試行錯誤を続け、何度も何度もあきらめずにお手玉に取り組んでいました。目指すゴールに向かって失敗の原因を考えながら、改善しようと粘り強く取り組む1年生の姿は、今求められているプログラミング的思考を実践している姿であり、新学習指導要領において育成しなければならない主体的に学習に取り組む態度です。生活科の学習で大切にしている「遊びを通して気づきを言語化」しながらしっかりと学んでいる姿です。2年生は、新治市民の森愛護会の皆様にご協力いただき自分たちが切った竹を使って竹ぼっくりと竹でっぼうを作って遊ぶという経験をしました。竹でっぼうはどのようにしたら紙玉がよく飛ぶかを考え、工夫します。これは、4年生の理科、空気の学習につながっています。遊びの中には、学習の素地となる生活経験があります。失敗した原因を考える、負けても怒らず気持ちを切りかえて取り組む、粘り強く成功するまでやってみるなども大事な学力です。冬休みには、大掃除や伝統的な行事など、経験できることがたくさんあると思います。様々な経験をして、さらに成長してほしいと願っています。

令和2年度から教育課程が変わります。本校でも行事等の時期や内容を含めて次年度準備を進めています。6年生の「わがまちふるさと三保」に至るまでの生活科や総合的な学習を通して地域と深く関わるカリキュラムをしっかりと見直し、学習指導要領の完全実施を迎えたいと思っています。地域の皆様にご協力いただくことで、本校の問題解決学習の質は確実に高まります。これからも社会に開かれた教育課程の運営改善を進めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※プログラミング的思考 自分が意図する一連の活動を実現させるためにどのような動きの組合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力（文部科学省による）